

大分舞鶴高校 ①



今年5月1日、大型連休のま
った中、大分市の別大興産ス
タジアムに約1千人の全校生徒
の声が響いた。
「し・ま・れ〜！ が・ん・
ば・れ！ ね・ば・れ〜！ お
し・き・れ〜！」
拍手子に乗せ、生徒が声を張
り上げ、グラウンドの野球部を
応援する。球場全体が震えた。
締められ
頑張り
粘れ
押し切れ

この4つの言葉が、校訓「舞
鶴魂」だ。
試合の相手は、同じ県立高校
のライバル、大分上野丘高だ。
両校の対決は、2年前に始まっ
た。地元の高校野球ファンから
「大分の早慶戦」とも称され
る。
舞鶴魂の後押しもあったのだ
ろう。今年の対決は、1点差で
勝利をつかみ取った。
「舞鶴魂はシンプルだけど、
大分で伝統高といえば、旧制
大分中の流れをくむ上野丘の名
が真っ先に挙がる。舞鶴はいわ
ば、上野丘を「補充」する存在
としてスタートした。
しかも校舎建設が間に合わ
ず、近くの中学校を仮校舎とし
ての船出だった。翌年3月、新
校舎が完成し、生徒は自らの手
で、机を運び込んだという。
「恵まれた伝統校に負けてた
まるか」。舞鶴は、上野丘に対
して、強烈なライバル心を抱い

同学年から国会議員3人

このライバル心を、教育にと
う昇華させていくか。創立3年
目の28年。全学年の生徒がそ
う前に、初代校長の橋本喬木氏
が、舞鶴魂を考案した。
橋本氏は「大分舞鶴同窓会報
第10号」で、こう述べている。
「学校の基礎を固めよう」と、
27年の暮れからいろいろ考えま
した。(中略) 校長室の飾りも
の校訓では、役に立たないの
であります」
「あっち(上野丘)は長男の
落ち着きに実力と気品を備え
る。それに対し、舞鶴は次男坊
の泥臭さでも言いますしよ
うか。熱気にあふれすぎている
です。その泥臭さが、子供たち
を精神的に鍛えてくれた」
金田浩嗣教頭(52)は、苦笑す
る。
長女の菜那さん(21)は61回生
と、長男の将吾さん(19)は64
回生と、ともに舞鶴生だっ
た。
菜那さんは来月4月から、警
視庁の警察官になる。採用試験
に臨み、念仏のように舞鶴魂を
唱えていたという。



ライバルには負けない！
授業にも熱が入る

磯崎氏が入学した当時は、舞
高と上野丘、そして県立大分雄
城台高の3校による「合同選
抜」が行われた。
合同選抜とは、複数高校を1
つのグループとし、まとめて合
格者を決定。その後、生徒を割
り分ける制度だ。「総合選抜」
とも呼ばれ、学校間格差を解消
しようとする入された。
ただ、導入校で学力低下など
が問題となり、現在では廃止さ
れている。
磯崎氏は2年生で生徒会長に
就任した。
「3割の生徒は受験時、舞高
が志望校ではなかった。思い入

人生の節目にあった舞鶴魂

だめかもしれないと思ったとき
に自分を鼓舞できる。舞鶴生が
一体になれる、魔法の言葉で
す」
生徒会長の2年生、糸永千晴
さん(17)は、こう言っているほ
うだ。
4つの言葉に支えられるの
は、在校生だけではなく。
「高校時代より、むしろ社会
人になってから言葉の意味をか
みしめることが多かったな」
この語るの、病院に介護・
医療食を提供する森永食研(大
分市)の副社長、釘宮完司氏
(69)は21回生だ。

在学中は「舞鶴より先生の授
業がうまいから」と上野丘の授
業に潜り込んだり、授業をサボ
って図書館で受験勉強に励むよ
うな「問題児」だったという。
釘宮氏は早稲田大に進み、卒
業後は大分市内の病院を中心に
事務長を歴任した。

「病院経営は、方向性を誤る
と成り立たない。プレッシャー
は大きかった。そんなとき、心
で唱えたのが舞鶴魂でした」
妻の加寿代氏(60)は23回生
も舞鶴OGだ。長年、大分放送
(OBS)に勤める。
「家庭内では取り立てて、高
校の話はしません。でも、舞鶴



校舎の正面入り口に掲げられる「舞鶴魂」

れが薄い。そこで生徒会運営で
は「復興舞鶴」をテーマに掲
げ、他の2校を意識して相当頑
張った。顧問の先生から「生徒
会は労働組合ではないんだぞ」
といわれたほど、存分に活動し
ました」
磯崎氏が生徒会長を務めた
とき、体育委員長だったのが、参
院議員の足立信也氏(60)だっ
た。さらに体育大会実行委員長
が、衆院議員(現在、選挙中)の吉
良州司氏(59)だったという。
「国会に同高、同学年の出身
者が3人いるのは、おそらく前
例がないのではないかと。舞鶴と
いう自由な青春の舞台で楽しさ
や、つらさを経験したことが、
その後の人生で大きな判断の方
向性を示してくれた。舞鶴なく
して、今の私はなかったでしょ
う」と語った。

現在の大久保和弘校長(58)
は、ライバル上野丘の卒業生
だ。
「舞鶴の何ともいえない一体
感を、正直、いつも苦々しく見
ていました。妬んでいたのかも
しれませんね。もちろん、今は
おくびにも出しませんよ(笑
い)」
大分舞鶴高校は、28日に
掲載予定です。



午後6時前。大分市内にある県立大分舞鶴高校第2グラウンドで、ラグビー部が練習を始め。専用グラウンドまで、学校から自転車で10分程度。着替えや準備を入れると、練習開始はとうとうこの時間になる。夏場でも日は傾き、冬場はとつぷりと暮れている。

練習後、帰宅は午後8時過ぎ。毎日、これが続く。「家では授業の課題がある。朝練もあり、部員の睡眠不足は切実な問題です。ただ、公立高校なので勉強にも手を抜けない。かわいそうですが、勝つために心を鬼にしています」

堀尾大輔監督(45)は38回生は語った。舞鶴が目指すのは文武両道だ。それも、中途半端は許されない。ラグビー部は「武」の筆頭ともいえる。

高校創立の昭和26年4月、新入生2人が入学式直後に校長室を訪れ、橋本喬木校長にラグビー部の創部を訴えた。「じゃあいい、分かっちゃる」

そう答えた橋本氏は、剣道の選手だった。当時、GHQ(連合国軍総司令部)は、学校現場で剣道を含む「武道」を禁止した。橋本氏は礼儀を重んじるラグビーに、日本古来の武道の精神を見いだした。

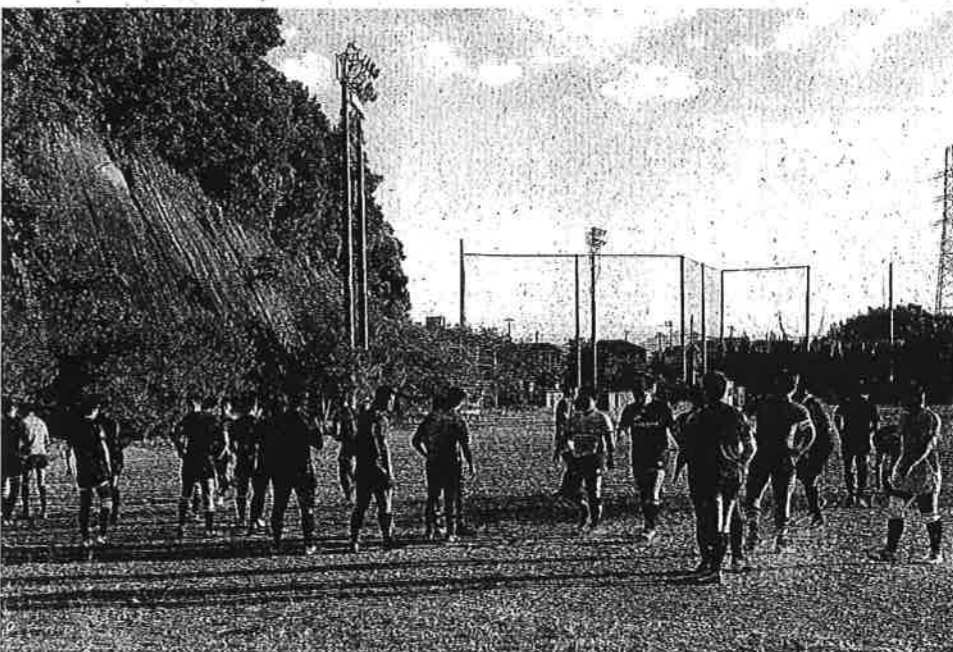
「前の年に決勝戦で敗れ、『次は絶対に日本一だ』と気が違った。3年の夏合宿は、本場に追い込まれまして。午前は走りっぱなしで、午後は延々と実戦形式の練習。選手は脱水症状ではたばた倒れ、私も一晩入院しました。翌朝から、練習を再開しましたけど」

辛く練習を乗り越え、山田氏は決勝で花園高校(京都)を破った。

「鬼みいだったコーチや監督、OBがグラウンド内に駆けつけて、みんなで陣を組んだ。涙が出たのはその瞬間です。頑張ってきた良かった…」

山田氏は西南学院大に進学した。

「文」も「武」も極めろ！



夕方に始まるラグビー部の練習。長い影がグラウンドに伸びる

し、ラグビーを続けた。企業を経営する現在も、ラグビーとの関わりは続く。

大分市ラグビー協会の会長として、2019年ラグビーワールドカップや2020年東京五輪での、フィジチーの事前キャンプ誘致に力を注ぐ。

「舞鶴でラグビーをしていなかったら、今のように真面目に生きていない。恩返しの意味もあるんです」

伝統は今も息づく。現3年生の富田晴大主将(18)は「歴史のある舞鶴ラグビー部で花園に行きたくて、福岡から入学しました。先輩から受け継いだ教養は、僕らの体に刻まれている」と胸を張った。

「文」も負けていない。単

なる受験勉強とはひと味違う、自由な学びが特徴だ。

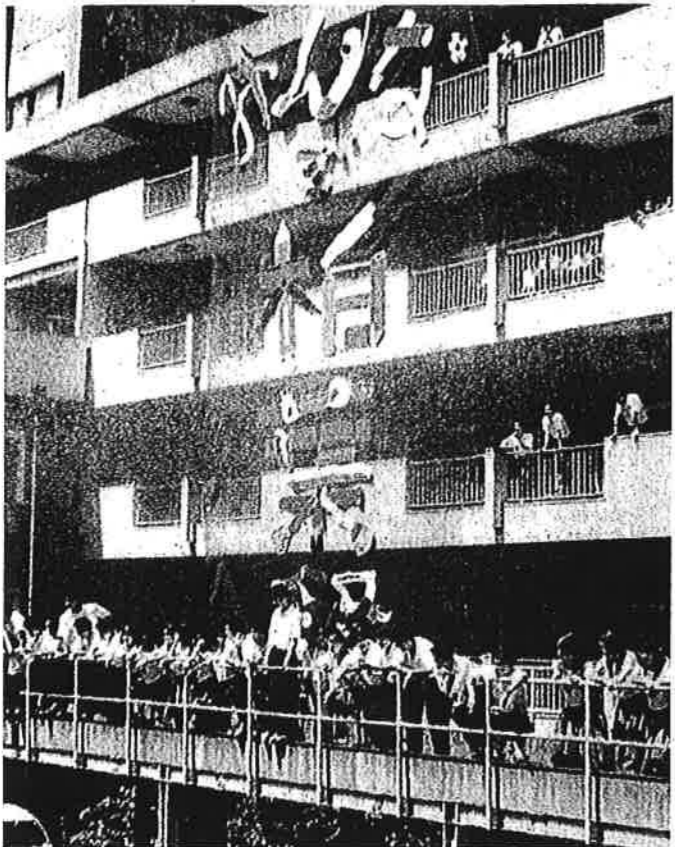
「高校1年生のとき湾岸戦争があり、中東に興味を持った。担任の先生に言われ、ロングホームルームで『日本一分かるパレスチナ問題』と銘打ち、授業をした。イスラエルやイラクなど国名を、友人に割り振って中東情勢を説明した。その際、日頃リーダー格の友人に米国役をしてみようなど、人柄と国柄を意識した。これが好評で、自信につながりました」

福岡市長の高島宗一郎氏(42)は40回生は、こう振り返る。

授業で培った自信は、さらなる活動の原動力になった。

(大森貴弘)

「次回には福岡県立小倉高校の予定です」



高島宗一郎・福岡市長が生徒会長として参加した柏葉祭(創立60周年記念誌より)